

保土ヶ谷工場再整備説明会において頂いたご意見・ご質問に対する本市の見解・回答について

1 住民説明会の開催状況

日時	場所	参加人数
4月22日(金)	瀬戸ヶ谷小学校	53名
4月24日(日)	環境活動支援センター	
4月25日(月)	六つ川台小学校	
4月27日(水)	権太坂小学校	

2 頂いたご意見・ご質問とそれに対する本市の見解・回答

保土ヶ谷工場再整備説明会において、地域の方々から、様々なご意見・ご質問を頂きました。
頂いたご意見・ご質問の要旨と、それに対する本市の見解・回答を以下にお示しします。

(1) 再整備計画について

ご意見・ご質問の要旨	本市の見解・回答
保土ヶ谷工場を再整備することとした理由を教えてください。	ごみ処理を将来にわたり安定的に継続していくため、新たな焼却工場の整備が必要です。焼却工場の建設には広大な敷地が必要となることから、現在休止し、ごみの中継輸送施設として使用している保土ヶ谷工場を再整備することが最適と考えています。
保土ヶ谷工場を再整備するといつ決めたのか教えてください。	平成30年に策定した「ヨコハマ3R夢プラン推進計画(2018~2021)」において、新たな焼却工場の整備に取り組むことを掲げ、令和3年3月に保土ヶ谷工場を再整備することを決定しました。
全て壊しての建替えではなく、一部を改修することは考えたのか。	今後の使用年数等を考慮し、設備のみの一部改修ではなく、建替えを行うこととしました。
新しい工場の仕様に対して、住民の意見を反映することはできるのか。	秋頃に予定している生活環境影響調査に関する地域説明会など、様々な機会をとらえ、皆様のご意見を伺ってまいります。

新しい工場では、どのような焼却方式を想定しているのか。	新しい工場の焼却方式は、これまでの実績を踏まえ、既存の工場と同様の焼却方式を想定しています。
非常時に工場で作った電気の活用を考えているとのことだが、児童遊園地及び近隣の小学校は防災拠点になっているので、うまく連携できるように、具体化して欲しい。	ごみ焼却工場は、災害時に大規模停電が発生した場合でも、ごみを燃料として発電することができます。今後、災害時に児童遊園地や保土ヶ谷プールといった施設への送電や充電した蓄電池を近隣の地域防災拠点に運搬するなどして、電気の有効利用を検討します。
新しい工場ではどの程度の電力を発電する予定なのか教えて欲しい。	現時点では、約5万世帯が消費する電力の発電を想定しています。
新しい工場では、ガスを使ってごみを燃やすのか。	既存の焼却工場と同様に、ごみ自体が持つエネルギーにより焼却を行います。（ガスなどの化石燃料は使用しません。）
保土ヶ谷工場再整備事業として、予算はいくらぐらいを想定しているのか。	約760億円を想定しています。

(2) 新工場の景観について

ご意見・ご質問の要旨	本市の見解・回答
新しい工場の建設にあたって、周辺が緑の多い緑地帯となっているので、美観が気になる。	周辺環境と調和のとれたデザインにし、地域の皆様に親しまれる施設となるよう、検討を進めていきます。
新しい工場の煙突について、これまでのような、いかにも清掃工場というイメージを払拭して欲しい。	
新しい工場の煙突の高さや、建物の大きさはどのくらいなのか教えて欲しい。	煙突の高さは現在と同じ、115mとする予定です。建物の大きさに関しては、今後の設計の検討の中で決まりますが、現在と大きく変更はないものと考えています。

(3) 新工場の環境対策について

ご意見・ご質問の要旨	本市の見解・回答
排ガス基準としてどのような種類のものがあるのか教えて欲しい。	主な排ガス基準の項目として「ばいじん」「硫黄酸化物」「窒素酸化物」「塩化水素」「ダイオキシン類」などがあります。

<p>煙突から排出されるばいじんについて心配している。最大瞬間風速等の調査も行っているのか。</p>	<p>今後予定している生活環境影響調査において、工場が稼働することによる周辺環境への影響について、気象条件も考慮して予測・評価を行います。</p>
<p>新しい工場の排ガス基準値はどの程度となる予定であるか教えて欲しい。</p>	<p>本市の焼却工場の排ガスには、法令や条例で定められた基準よりも、さらに厳しい管理目標値を設定しています。新たに整備する保土ヶ谷工場においても、同様の考え方で管理目標値をしっかりと遵守できる最新の排ガス処理設備を導入します。</p>
<p>新しい工場の排ガス処理設備は、以前のものに比べてさらに良くなるのか。</p>	
<p>新しい工場は環境に対して十分に配慮して欲しい。</p>	
<p>新しい工場では、様々な環境の基準について全部クリアできるのか。</p>	
<p>新しい工場に設置する排ガス処理設備は、何年後かの厳しい環境基準もクリアできるのか。</p>	<p>今後、法令や条令などで規制される環境基準が変わった場合には、新しい基準を遵守できるよう設備改修等を行います。</p>
<p>排ガスの影響範囲は、煙突を中心に、半径何キロメートル位と想定しているのか。</p>	<p>現在、生活環境影響調査を行っており、その中で影響が及ぶ範囲について確認を行っています。その結果については、秋頃に予定している説明会でご報告させていただきます。</p>
<p>新しい工場の排ガスなどの排出値について、ホームページで広報していますというだけでなく、それを住民がきちんとわかるように数値的開示をお願いしたい。</p>	<p>地域の皆さまに安心していただけるよう、排ガスの排出状況が確認できる表示板を設置します。</p>
<p>以前、中継輸送施設では臭気問題が発生したことがあったが、新しい工場ではごみの臭気は発生しないのか。</p>	<p>ごみを溜めているところの空気（臭気）は、ごみを燃やすための空気として使い、850℃以上の高温での焼却により分解されます。そのため、臭気の問題は発生しにくいものと考えています。</p>
<p>工場完成後、生活環境影響調査と同じ視点で周辺環境について調査を行う予定はあるのか。</p>	<p>新しい焼却工場が稼働後に、周辺環境への影響の確認のため、生活環境影響調査の手順に準じ、周辺の大気環境について測定を行います。</p>
<p>煙突から 100m、200m離れたポイントで周辺環境について調査を行う予定はあるのか。</p>	

(4) 保土ヶ谷工場の管理運営について

ご意見・ご質問の要旨	本市の見解・回答
<p>以前、洗濯物を干すと白い粉のようなものが付着していたことがあった。また、工場稼働時には一晩車を外に置いておくと、プラスチックの様な粒がついていた。工場の排ガスと関係はないのか。</p>	<p>ごみの焼却により発生する排ガス中に含まれるばいじんは、バグフィルタと呼ばれる高性能なフィルタで除去し管理目標値を超過しないよう運転を行っています。</p>
<p>新しい工場から周辺に有害物質が降ることはないのか。</p>	
<p>焼却工場の排水を今井川に流している。何も対策していないので問題になると思う。</p>	<p>工場が発生した排水は、排水処理設備で処理し、工場内において再利用しており、余剰水は下水道に放流しています（河川への放流はありません）。</p>
<p>昨年、保土ヶ谷工場でピット火災が発生したが、地元住民には何のアナウンスもなかった。</p>	<p>昨年のピット火災につきましては、ご心配をおかけしました。火災発生時は、工場周辺地域に広報車による火災情報のお知らせを行うとともに、記者発表を行いました。</p>

(5) 再整備工事について

ご意見・ご質問の要旨	本市の見解・回答
<p>構内通路が使えなくなるとのことが、仮設通路を検討して欲しい。</p>	<p>中継輸送施設建設中は、安全確保のため、児童遊園地内の通路（迂回ルート）の利用をお願いします。中継輸送施設建設工事において、新しい構内通路を設け、令和7年3月からご利用いただける予定です。なお、構内通路の使用制限期間を極力短くできるよう、建設事業者と調整していきます。</p>
<p>工事中の騒音・振動に配慮して欲しい。</p>	<p>敷地境界において法的基準値を遵守するよう対策を講じるとともに、工事中の騒音・振動を確認できる表示板を設置する予定です。</p>
<p>焼却炉の解体を行う際、PCB等、環境に大きな影響があるのではないかと。どのように解体していくのか。</p>	<p>仮囲いや養生を十分行い、解体にあたっての国の基準を順守します。</p>
<p>国道1号線から保土ヶ谷工場への進入道路（トンネル）の歩道の幅が狭く歩きにくい。再整備に併せて、出来る限り歩道を拡幅して欲しい。</p>	<p>保土ヶ谷工場再整備の一環として、トンネルを含む搬入道路の歩道の拡幅についても検討を行う予定です。</p>

(6) 地元還元について

ご意見・ご質問の要旨	本市の見解・回答
新しい工場が出来ることで、周辺住民への見返りはないのか。	保土ケ谷工場は「地域に根ざした焼却工場」として、大規模災害への備えや、環境学習の拠点、プール等の余熱利用施設での熱の有効活用などの視点で再整備を進めていきます。
ごみ焼却工場ができることに対して、地域への還元はされるのか。	
工場が発電した電気を地域に還元することはできないのか。	

(7) その他

ご意見・ご質問の要旨	本市の見解・回答
横浜市の1人あたりの燃やすごみの量はどのくらいなのか教えて欲しい。	1日1人あたり約380gです。
保土ケ谷工場が休止した理由について教えて欲しい。	平成15年の横浜G30プラン策定以降、市民・事業者の皆さまのご協力のもと、分別・リサイクルをはじめとする3Rの取組を進めてきた結果、40%以上の大幅なごみ減量を達成することができました。その結果、市内に7つあった焼却工場が、4つで焼却処理することが可能となり、2工場を廃止し、保土ケ谷工場についても平成22年に一時休止を行ったものです。
分別の結果、7工場あったものが4工場となったということであるが、分別は大変だったので、その効果について教えて貰えると励みになる。	市民・事業者の皆様へ、ごみの分別にご協力いただいた結果として、2つの工場を廃止することができ、その建替え費用として約1,100億円を削減することができました。
権太坂上から工場に入るところで、水漏れや水道管の破損等、インフラが老朽化している。路面の補強なども検討して欲しい。	今後、道路管理者へのヒアリング・協議等を行ってまいります。
国道1号線から保土ケ谷工場への進入道路（トンネル）について、20km程度の制限速度であるはずが、守っている車両が少ない。制限速度を守って欲しい。	車両の制限速度が守られるよう、改めて関係各所に周知を徹底します。 また、再整備にあたっては、制限速度を守るための取組として、通行車両がどの程度スピードを出しているか分かるような工夫等についても検討していきます。
工場稼働中の排ガスの測定結果はどこに掲載されているのか。	市のホームページに、工場から排出された排ガスの測定結果を掲載しています。 https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/sumai-kurashi/gomi-recycle/shokai/shokyaku/kojo.html